

2016 年度
事業報告書

公益財団法人 宇宙科学振興会

2016 年度事業報告書

2016 年度は当財団、宇宙科学振興会が 2012 年 4 月 1 日付で公益財団法人に移行して 5 年目の事業年度であった。当財団の事業目的は宇宙科学に関する事業への援助及び研究助成等を行い、宇宙科学の振興に寄与することである。この目的に沿って行った公益目的事業は、(1) 宇宙科学奨励賞顕彰事業、(2) 国際学会出席旅費支援事業、(3) 国際学会開催支援事業の 3 事業である。2016 年度においてもこれらの 3 事業を予算の範囲内で推進した。他団体が中心となって企画・運営される宇宙科学の知識の普及・啓蒙活動に対する支援・協賛事業についても、法人会計の管理費内で実施した。

若手研究者を対象とした 2016 年度の第 9 回宇宙科学奨励賞は、奨励賞選考委員会の選考結果の報告を受け、宇宙理学分野及び宇宙工学分野の若手研究者各 1 名（計 2 名）に宇宙科学奨励賞を授与した。若手およびシニア研究者の海外渡航への支援及び日本国内での国際学会開催の支援については、上半期助成分と下半期助成分の 2 回に分けて公募と審査を行った。これらの公募は関係学会を通じて関係者に周知し、ほぼ例年規模の数の研究者が応募した。

当法人の管理・運営は極めて経費を節減した方法ながら、関係者の協力の下で順調に進められた。

I. 公益目的事業

(1) 宇宙科学奨励賞

宇宙科学奨励賞は、宇宙理学・宇宙工学の分野で優れた研究業績をあげ将来宇宙科学推進の中心となることが期待される若い研究者を顕彰し、宇宙科学分野の進展に寄与することを目的として、当公益財団法人の前身の財団法人において 2008 年度に創設された。この事業ではまず関係学会（2016 年度現在は 14 学会）の研究者に候補者の推薦を依頼し、宇宙科学各分野の当該年度 4 月 2 日時点で 37 歳以下の若手研究者（この年齢制限は大学院修了後約 10 年間を目途とするとの趣旨）のうちで最近著しい成果を挙げている若手研究者を推薦していただく。寄せられた推薦に基づいて、各分野の有識者で構成される選考委員会により候補者の審査・選考を進める。選考委員会は原則として宇宙工学関係から 1 名、宇宙理学関係から 1 名、合計 2 名の候補者を選出する。理事長は理事会の委任によりその選考委員会の推薦に基づいて当該年度の授賞者の承認決裁を行う。

2016 年度は第 9 回目となるが、受賞者には賞状、表彰楯の他に副賞 30 万円が授与される。今年度は関係の各分野の研究者から、理学系 5 名、工学系 4 名、合わせて 9 名の授賞候補者の推薦を受けた。2016 年 12 月 10 日に第 1 回、2016 年 12 月 27 日に第 2 回の選考委員会が開催され、その間及びその後のメール連絡を含めて審査選考が行われた。選考委員会において審査の結果、理学分野では国立天文台チリ観測所特任助教 岡本文典（おかもと じょうてん）氏

(1980年生)に対して、その研究題目「飛翔体観測による太陽大気波動の研究」を対象として、工学分野では九州大学大学院総合理工学研究院・助教 安養寺正之(あんようじ まさゆき)氏(1983年生)に対して、その研究題目「火星大気風洞および関連計測技術の開発と低レイノルズ数領域における圧縮性効果の解明」を対象として、第9回宇宙科学奨励賞を授与することとなった。

表彰式は2017年3月9日に霞が関ビル東海大学校友会館において約50名の出席者を得て開催され、岡本文典氏及び安養寺正之氏には松尾理事長より本賞(賞状と表彰楯)と共に副賞(賞金30万円)が贈呈された。当日は引き続き両氏による受賞記念講演が行われ、その後財団主催の祝賀会が開かれた。

(2) 若手及びシニア国際学会出席旅費支援事業

この事業は当財団が公益財団法人に移行する前の旧財団法人により1997年度に創設された。当初より宇宙理学及び宇宙工学に関する独創的・先駆的な研究活動を行っている当該年度4月2日時点で35歳以下の優れた若手研究者に対して、海外で開催される国際学会に出席する費用の支援を行ってきた。2006年度以降は、大学や研究機関などを退職後も、活発な研究活動を行っている63歳以上のシニア研究者に対しても、支援を行っている。

国際学会出席旅費支援の申請は当財団の研究助成審査委員会において採否が審査される。従来応募総数に対する採択率は平均して3分の1程度である。審査の結果採択された助成対象者は、その発表論文テーマ、国際会議名、開催場所、日時等の情報とともに財団のホームページに公表される。渡航後には国際会議で発表の成果についての報告書を渡航1ヶ月内に提出頂き、提出された報告書は財団のホームページに掲載される。

2016年度前期に当たる2016年4月～9月の渡航を対象とする国際学会に対しては、2016年2月29日に応募を締め切っている。また2016年度後期に当たる2016年10月～2017年3月の渡航を対象とする国際学会に対しては、2016年8月31日に応募を締め切った。また2017年度前期に当たる2017年4月～9月の渡航を対象とする国際学会に対しては2017年2月28日に応募を締め切った。

本年度の公募は、財団の公式ホームページの他に関係14学会の学会誌または学会ホームページを通じて通知された。採択者には1件当たり10万円～25万円の範囲で助成を行うこととしており、2016年度の予算では10～15件程度の国際学会出席旅費支援を予定したが、2月29日締切りの応募に対し6件、8月31日締め切りの応募に対し4件、合計10件(応募者総数20件、採択率約50%)が採択された。ただし、採択後他機関の助成を受けることが決まったため辞退したケース及び健康問題で学会出席を断念し辞退したケースが合わせて4件あった。辞退者以外の6名の採択者には公示の枠内(1件当たり10～25万円)で渡航先、開催期間・渡航時期に基づいて算定された助成金が支給された。2016年度においては本事業の助成金予算額200万円であったのに対して実施助成金額合計は97万円であった。表1に2016年2月29日及び8月31日締切りで募集し、2016年度に実施した国際学会出席旅費支援6件及び辞退の4件の一覧を示す。助成を受けた採択者の国際学会参加・発表の成果の報

告は財団のホームページに記載されている。

表 1 2016 年度 国際学会旅費支援 助成支援者一覧

所 属	氏 名	国際研究集会の 名称	主催団体	開催地	期 間
東海大学情報技術センター 特定研究員	タカギ セイコ 高木 聖子	International Venus Conference 2016	euro venus, ESA, university of OXFORD	オックスフォード・イングランド	2016.4.4 ～4.8
東京大学 研究員	カワシマ レイ 川嶋 嶺	米国航空宇宙学会 推進・エ ネルギー講演会	AIAA	ユタ州・合衆 国	2016.7.25 ～7.27
宇宙航空研究開発機構 JAXA プロジェクト研究員	アンドウ ヒロキ 安藤 紘基	第 13 回アジア・オセアニア 地球科学学会	AOGS2016	北京・中国	2016.7.31 ～8.5
名古屋大学 宇宙地球環 境研究所 日本学術振興会特別研 究員	クリタ サトシ 栗田 怜	第 13 回アジア・オセアニア 地球科学学会	Asia Oceania Geosciences Society	北京・中国	2016.7.31 ～8.5
総合研究大学院大学 物理科学科 宇宙科学専攻 博士課 程 3 年	タナカ コウヘイ 田中 康平	European Space Power Conference 2016	European Space Agency	ギリシア	2016.10.3 ～10.7
名古屋大学 環境学研 究科 地球環境科学専攻 博 士課程 2 年	カノウ シンスケ 加藤 伸祐	米国地球物理学連合 2016 年大会 American Geophysical Union Fall Meeting 2016	American Geophysical Union	アメリカ合衆国 サンフランシス コ	2016.12.12 ～12.16

辞退者 4 件

東京大学 工学系研究科 航空宇宙工学専攻 博士 後期課程 3 年	テラカド ダイキ 寺門 大毅	第 22 回アメリカ航空宇宙学 会/ヨーロッパ航空宇宙学会 連合 空力音響学会	AIAA/CEAS	リヨン・フランス	2016.5.30 ～6.1
東北大学大学院理学研 究科 教育研究支援者	ヤギ マナブ 八木 学	第 13 回アジアオセアニア地 球科学学会	Asia Oceania Geosciences Society	北京・中国	2016.7.31 ～8.5

青山学院大学 理工学 研究科 高エネルギー天文学専 攻 博士課程 2年	カワクボ ユウタ 川久保 雄太	第8回 ハンツビル ガンマ 線バーストシンポジウム 8th Huntsville Gamma-Ray Burst Symposium	Universities Space Research Association/ NASA Goddard Space Flight Center	アメリカ合衆国 アラバマ州	2016.10.24 ~10.28
東京大学 工学系研究 科 航空宇宙工学専攻 修 士課程 1年	ワチ アキフミ 和地 瞭 良	米国電気電子学会エアロスペ ースカンファレンス IEEE Aerospace Conference	IEEE	アメリカ合衆国 モンタナ州	2017.3.4 ~3.11

(3) 国際学会・国際研究集会開催の支援事業

宇宙科学分野（宇宙理学、宇宙工学）の国際学会・研究集会を日本国内で開催する組織・団体に対する支援は前身の財団法人宇宙科学振興会の創設（1990年）当初より行われてきた。ただし、当初は宇宙科学分野の国際学会・国際研究集会の主催は宇宙科学研究所の研究者が行うことが多かったため、全国公募ではなく宇宙科学研究所内部の研究者または衛星プロジェクトなどで宇宙科学研究所と共同研究を進めている各大学の研究者を対象とする内部応募の形式となっていた。その後この助成事業に対し全国的に関心・期待が高まってきたことを受け、2007年度よりこれを宇宙科学研究所の事業に限らず理論的研究等も含めて、全国の研究機関・大学において宇宙理工学に関する国際学会・研究集会を主催する場合には広く応募できるように、全国の研究機関・大学を対象とした公募型事業に発展させてきた。公益財団法人宇宙科学振興会に移行した後においてもこの事業を継続している。

国際学会・国際研究集会開催の支援の申請は、国際学会出席旅費支援の申請と同様、当財団の研究助成審査委員会において採否が審査される。従来応募総数に対する採択率は平均して3分の2程度である。年度の上半期（4月～9月）開催分の応募の締め切りは前年度2月末日とし、下半期（10月～3月）開催分の応募申請の締め切りを8月31日として実施している。

本年度の公募は、財団の公式ホームページの他に関係14学会の学会誌または学会ホームページを通じて通知された。採択された国際学会・国際研究集会に対し、1件当たり30～50万円の範囲で助成を行うこととしており、2016年度の予算では3～5件程度の国際学会・国際研究集会開催支援を予定したが、2月29日締め切りの応募に対しては応募がなく、8月31日締め切りの応募に対し3件、合計3件（応募件数3件、採択率100%）が採択された。2016年度に支援を実施した国際学会・国際研究集会3件の一覧を表2に示す。この支援事業に対する2016年度の助成予算額150万円のところ、実施助成額は115万円であった。各国際学会・国際研究集会開催の状況や成果の概要は財団のホームページに掲載されている。

表2 2016年度 国際学会開催支援 助成支援学会一覧

所 属	申請者	国際研究集会の名称	主催団体	開催地	開催期間
大阪大学 核物理研究センター 教授	能町 正治	国際スペースワイヤ カンファレンス 2016	国際スペース ワイヤカンファ レンス 2016 組織委員会	横浜赤レン ガ倉庫	2016.10.25 ～10.27
理化学研究所 MAXI チーム チームリーダー	牧島 一夫	MAXI の七年間の 連続観測	理化学研究所	理化学研 究所・和光 キャンパ ス・鈴木梅 太郎ホー ル	2016.12.5 ～12.7
北海道大学 大学院 理学研究院 教授	坂本 尚義	太陽系科学 シンポジウム 2017	北海道大学 新 学術領域研究 「宇宙分子進化」	北海道虻 田郡留寿 都村 ルス ツリゾート	2017.2.13 ～2.15

なお、公益目的事業(1)～(3)の 2016 年度の事業別応募採択数を、参考資料として本報告書に添付している。

II. 財団の管理運営

現在当財団は神奈川県相模原市に所在する国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所内に一室を借用しこれを事務室として、非常勤事務局長 1 名、非常勤事務職員 2 名の計 3 名体制で財団の管理運営を行っている。

(1) 宇宙科学に関する知識の普及・啓蒙事業

当財団が一般支援事業として行っている本事業の目的は広く一般国民に対して宇宙科学に関する知識を普及するとともに、若手青少年の宇宙科学に関する興味・関心を深め、宇宙科学の将来の発展に寄与することである。本事業は一般国民、青少年を対象に同様の目的で活動する他団体と連携して行う。

2016年度に一般支援を行なった支援先は表3に示す通りである。本事業は他の組織・団体が企画・運営の中心になっている事業への支援であるため、公益財団法人への移行後は管理費（法人会計）から支出することとした。2016年度の支援額は約57万円であった。

表3 2016年度 啓蒙普及目的の一般支援一覧表

支援内容	支援先
2016年度 JAXA 相模原キャンパス特別公開 スタンプラリー景品代 2016年7月29日、30日開催	宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所
第12回 能代宇宙イベント 2016年8月18日～26日開催	一般社団法人あきた宇宙コンソーシアム
第29回 モデルロケット全国大会助成金 2016年10月22日 開催	日本モデルロケット協会
第24回 衛星設計コンテスト協賛金 2016年11月12日開催	一般財団法人日本宇宙フォーラム

(2) 基本財産の現況と運用

2016年度末における基本財産総額は約4億5,548万円であり、基本財産の運用に伴う果実は約702万円（約1.54%）となり、前年度実績より約360万円の減少となった。

(3) 賛助会員の加入状況

2016年度の会員数は、12法人（25口※）であった。（※ 1口10万円）

(4) 理事会、評議員会の開催

2016年度には次の通り理事会、評議員会を開催した。

- ・2016年5月26日：宇宙科学研究所（新A棟2階会議室B）において第13回理事会を開催し、「2015年度事業報告及び財務諸表等計算書類承認の件」、他3議案について審議・承認を行った。
- ・2016年6月16日：東京ガーデンパレス 3階（橘）において第8回評議員会を開催し、「2015年度事業報告及び財務諸表等計算書類承認の件」、他1議案について審議・承認を行った。
- ・2017年3月9日：東海大学校友会館（霞の間）において第14回理事会を開催し、「2017年度事業計画及び収支予算案提案の件」、他3議案について審議・承認を行った。

Ⅲ. 附属明細書について

2016年度事業報告書には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

以上

(参考資料)

2016年度 事業別応募採択数 (公募年度で集計)

(2016年4月～2017年3月)

1) 宇宙科学奨励賞

	応募申請 (件)	採択 (件)	採択額 (¥)
10/31締切	9 (理5・工4)	2 (理1・工1)	600,000

2) 国際学会旅費支援

	応募申請 (件)	採択 (件)	採択額 (¥)
8/31締切	8	4	720,000
2/28締切	6	5	880,000
計	14	9	1,600,000

3) 国際学会開催支援

	応募申請 (件)	採択 (件)	採択額 (¥)
8/31締切	3	3	1,150,000
2/28締切	4	3	1,100,000
計	7	6	2,250,000